

# 県議会やまがた

9月定例会号

第19号 / 平成29年(2017年)11月発行(年4回発行)



〔9月定例会〕本会議での代表質問

## 目次

- ◆ 1ページ
  - ・9月定例会の概要・代表質問・一般質問
  - ・若者向け広報紙「県議会ナビ第2号」の発行
- ◆ 2ページ
  - ・9月定例会の一般質問
  - ・予算特別委員会の質疑内容
  - ・宮城県議会・山形県議会交流議員連盟の活動報告
- ◆ 3ページ
  - ・予算特別委員会の質疑内容
  - ・採択した請願、可決した意見書
  - ・フル規格新幹線の整備促進に向けた研修会の開催
- ◆ 4ページ
  - ・議場演奏会と議会見学会の開催
  - ・生徒・学生との意見交換会の開催
  - ・山形県議会危機管理マニユアル策定委員会の設置
  - ・県議会ギャラリーの提供

## 9月定例会の概要

「県議会やまがた」第19号は、9月定例会の内容を中心に、8月から10月にかけての議会活動についてお伝えします。

9月21日から10月11日までの21日間の会期で開催され、本会議で自由民主党、県政クラブによる代表質問、3名の議員による一般質問を行い、さらに予算特別委員会で8名の委員による質疑や常任委員会での審査を経たうえで、平成29年度一般会計補正予算をはじめ、知事提出の46議案などを同意・可決しました。請願は7件上程され、4件が採択、2件が継続審査となり、1件は不採択となりました。

意見書は3件発議され、全て原案どおり可決、関係する府省等に提出されました。主な質疑・質問の内容は、次のとおりです。

## 代表質問から



自由民主党  
大内 理加 議員  
(山形市選挙区)

### 学力向上の取組み

**問** 平成29年度の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、学校現場と地域や家庭が危機感を共有する必要があると考えるが、学力向上に向けてどのように取り組んでいくのか。

**答** 市町村教育委員会、学校と意見交換をしながら認識や危機感を共有し、課題となっている基礎基本の定着に向けて一体となって取組みを進めている。また、家庭との連携により、望ましい生活リズムの確立や家庭学習時間の確保に取り組みほか、学校でも、家庭学習の手引きや宿題の工夫等により、児童生徒の興味や意欲などを高めていく。

### 子どもの貧困対策

**問** ひとり親の支援に加え、子どもたちに直接寄り添った



支援が必要と考えるが、今後どう取り組んでいくのか。

**答** このころの安定性や自尊心の低下など、支援が必要な子どもを早期に把握し、適切な支援施策や地域の支援機関へ確実につなぐことが重要である。各市町村で関係機関と連携した推進体制が早期に構築されるよう具体的な取組みを進めていく。また、子どもの能力や可能性を伸ばしていくため、地域における学習支援や子ども食堂など、子どもたちに必要な支援がしっかりと届くよう取り組んでいく。

### 畜産振興と食肉処理施設整備の方針

**問** 畜産振興を図るためには、輸出対応の視点も取り入れた食肉処理施設の整備を進めていくべきと考えるがどうか。

**答** 担い手の育成・確保や、規模拡大による生産基盤強化、ブランド力の向上に取り組む競争力強化を目指すこととしている。一方、人口減少に伴い、国内消費量の減少が見込まれるため、輸出により海外での需要を確保する必要がある。食肉処理施設については、関係者による検討会を設置し、施設の老朽化や輸出への対応等の観点から、十年後を見据えたあるべき姿について、検討を進めている。



県政クラブ  
吉村 和武 議員  
(山形市選挙区)

**問** 県産農林水産物の販路拡大に向けた宮城県との連携

については、宮城県との連携により、効果的なプロモーションが期待できると考えるが、販路拡大の取組状況及び今後の進め方はどうか。

**答** 宮城県と連携し、国内では、商談会を開催して販路拡大に成果をあげているほか、海外でも、平成29年8月に台湾・台北市の高級スーパーで物産展を開催し、好評を博した。今後も両県が定期的な情報交換を行い、国内のみならず海外においても、互いの強みを活かせる企画を実施し、県産農林水産物のブランド化と販路拡大につなげていく。

### 中心市街地活性化に対する県の姿勢

**問** 中心市街地においては、空洞化に歯止めをかけ、賑わいを取り戻すための対策が急務となっている。活性化に向けた市町村の取組みに対し、どのような姿勢で臨むのか。

**答** 市町村の取組みを促進するため、先進事例についての情報提供等による意識の醸成や、熟度に応じた支援を行っている。中心市街地の活性化を図っていくためには、市町村が今後どのようにまちづくりを進めていくかということが大変重要である。市町村の考えを尊重し、それを踏まえた地域の主体的な活動が円滑に進み、中心市街地の活性化に資するよう支援していく。

### 中小企業スーパーマーケットサポ補助金の実績と今後の展開

**問** 平成29年度から小規模事業者のための新たな補助メニューを追加し、旧制度を拡充して創設された「中小企業スーパーマーケットサポ補助金」について、採択実績及び今後の展開はどうか。

## 若者向け広報紙「県議会ナビ第2号」の発行

県議会では、高校生を中心とした若者に、県議会を身近に感じて興味を持ってもらうため、若者向け広報紙「県議会ナビ」を平成28年度から年1回発行しています。

29年10月に発行した第2号の編集に当たっては、若い方々の感性を活かしたデザイン・内容にするために、県議会と連携協定を締結している山形大学の学生の皆さんに協力いただきました。

「県議会ナビ」は、県内の高校・大学等に配布しているほか、県議会のホームページでもご覧いただけます。



記事の構成・内容について検討する学生



志田英紀議長(左)へのインタビュー



県議会広報・広聴委員会でデザイン案を説明する学生

## 一般質問から



自由民主党  
小松 伸也 議員  
(最上郡選挙区)

### 県産品の輸出拡大に向けた取組み

**問** 県産品の輸出拡大を図るため、今後どのような具体的方針をもって取り組んでいく



**問** のか。

**答** より高い効果を発揮できるタイミングと国・地域を見極めてトップセールスを行い、得られた評価を確実に取引に結び付けるよう県内企業等を支援していく。今後は、台湾及び香港では日本酒や農畜産物など、中国の東北三省や北京等の消費地では日本酒や加工食品、工芸品、ASEANでは果物や野菜の販売拡大を引き続き目指すとともに、輸出に取り組み県内事業者のすそ野の拡大を図っていく。

**へき地の医療対策**

**問** 医師不足の現状と、へき地医療対策に、これまでどう取り組んできたのか。

**答** 本県の人口10万人当たり医師数は、平成26年末で230・4人と全国平均244・9人を下回っており、特に過疎地等の医師不足が深刻となっている。こうしたへき地の医療の確保に向け、県内公立病院等での勤務を条件とする修学資金の貸付けなどに取組み、医師は順次、増加する見込みとなっている。また、医師不足の市町村立病院等に対し、県が指定するへき地域医療拠点病院からの派遣により、へき地の医師の確保に努めていく。



県政クラブ 青柳 安展 議員 (東根市選挙区)

**問** 山形―札幌便の利用状況と今後の課題

山形―札幌便は好調な利用状況にあるが、その要因と課題をどのように捉え、さらなる利用促進や路線定着に向けて今後どのように取り組んでいくのか。

**答** 4～8月の利用者数は約1万9千人で、平均搭乗率は81・5%と高い実績となった。官民挙げての多様な取組みの効果が現れたものと考えている。需要が落ち込む冬期間の利用促進対策などが課題であり、CMやフリーペーパー等でのPR活動を集中的に行うほか、運賃助成など、今後とも利用拡大に取り組み、路線の定着を図っていく。

**洪水被害軽減に向けた河川維持管理の推進**

**問** 対策が急がれる県内の河川区域内の支障木の伐採について、今後どのように推進していくのか。

**答** 市街地や要配慮者利用施設に影響のある箇所などの支障木の伐採等を計画的に進めている。こうした箇所以外についても、効率的に支障木対策を進めていく必要があるため、民間企業や個人が伐採した支障木をチップや薪などに活用する「公募型支障木伐採」を実施している。支障木を除去するだけでなく、地域資源として活用する視点から「公募型支障木伐採」を引き続き推進していく。



自由民主党 加賀 正和 議員 (尾花沢市・北村山郡選挙区)

**問** 米政策の見直し後の米需給調整に対する県の取組み

**問** 平成30年産以降の米需給調整について、需要に応じて設定する「生産の目安」の実効性を確保することが重要と考えるが、どう取り組んでいくのか。

**答** 30年産以降の米づくりへの誘導施策として、転作作物による地域の産地づくりを支援する産地交付金の配分における加算、補助事業の優先採択に向けた評価項目の設定及びびつや姫・雪若丸の生産者等の認定要件等における優先を検討している。また、政府に対しては、全国的な需給バランスを調整する仕組みの創設等について働きかけていく。



**サケふ化放流事業の振興と支援**

**問** サケふ化に取り組み技術者の育成・確保、生産組合等の経営改善及び老朽化したふ化場の維持修繕に、どう対応していくのか。

**答** 水産庁と連携した派遣技術指導や講習会により、増殖技術向上と技術者の養成を図っている。また、経営改善計画策定に対する指導助言のほか、稚魚買上価格の引上げ等による支援を実施している。ふ化場の維持修繕については、施設長寿命化計画の策定を進め、海面漁業者の負担のあり方等について、意見交換を行いながら、対応策を検討していく。

**予算特別委員会の質疑内容**



自由民主党 柴田 正人 議員 (南陽市選挙区)

**届出保育施設保育料の負担軽減**

**問** 届出保育施設保育料の負担軽減など、子どもを安心して預けられるような子育て家庭への支援に、どのように取り組んでいくのか。

**答** 所得に応じた保育料負担となる認可施設の整備とともに、届出施設の認可施設への移行も進めている。届出施設保育料の負担軽減については、市町村によって施設に期待する役割や支援のあり方等に様々な意見があるため、市町村の意見を十分把握しながら支援のあり方を検討していく。

**都市計画街路事業の役割と進捗状況**

**問** 街路事業の現状と今後の事業推進に向けた取組みはどうか。

**答** 街路事業は、都市の活力を維持し、中心市街地の活性化を目指す手段として重要性が高まっている。現在、12工区で実施しているが、事業期間が長くなっている状況があるため、部分供用や関連事業との進捗調整などにより、可能な限り速やかに事業を推進していく。また、地域住民に対し、確実に情報が伝わるよう、丁寧な説明に努めていく。



県政クラブ 石黒 覚 議員 (酒田市・飽海郡選挙区)

**保健医療計画の改定**

**問** 第6次山形県保健医療計画の成果と次期計画における施策の方向性はどうか。

**答** 第6次計画の成果として、地域医療情報ネットワークの整備による医療機関の連携、地域包括ケアシステムの構築による医療と介護の連携、災害医療体制、認知症患者対策などでの成果が挙げられる。次期計画においては、医療従事者の確保・定着の推進や在宅医療の機能充実、自主的な健康づくりの環境整備などが柱になると考えている。

**ごみゼロやまがたの実現に向けた県民参加の促進**

**問** 庄内海岸をきれいにするため、第2次山形県循環型社会形成促進計画ではどう目標を設定し、県民参加の促進に向け、どう取り組んでいるのか。

**答** 海岸清掃ボランティアの参加者数を毎年度3千人以上とする目標を設定している。県民参加の促進に向け、NPO等が行う海岸清掃活動の日程の広報や、飛島の海岸漂着物の回収活動を行う飛島クリーンアップ作戦などを実施するほか、チーム対抗ごみ拾いを行うSPOGOM I大会を県内全域で実施している。



**～宮城・山形両県の発展と交流拡大のために～**

本県と宮城県の一層の発展と交流拡大を図るため、平成18年に「宮城県議会・山形県議会交流議員連盟」が設立され、毎年、両県が連携して取り組むべき諸課題に関する調査研究事業を行っています。

8月10日に、仙台市内で総会、講演会及び意見交換会を開催しました。講演会では、仙台国際空港株式会社代表取締役社長の岩井卓也氏を講師に招き、「東北の空を世界の空へ～仙台空港と地域との連携～」と題して講演いただきました。その後、「オール東北による国内外からの観光誘客における宮城・山形の役割」、「宮城・山形両県産品の国際販路拡大」、「宮城・山形の連携による農業振興」、「災害等における危機管理」の4つのテーマで分科会を開催し、両県議員間で活発な意見交換を行いました。



講演会の様子



意見交換会の様子



自由民主党 渋間佳寿美 議員 (米沢市選挙区)

**祖父母手帳の導入等、孫育てができる環境づくり**

**問** 最新の子育てに関する情報を掲載した祖父母手帳を導入し、全ての祖父母や親に行き渡らせることで、安心して孫育てができる環境づくりが進んでいくと考えるがどうか。

**答** 親と祖父母がお互いに思いやり支え合うことは大切な

**奥羽新幹線の実現に向けた取り組み**

**問** フル規格の奥羽新幹線の早期実現のためには、まずは福島―米沢間の板谷峠のトンネルを整備し、そこから伸ばしていくことが有効であると考えるがどうか。

**答** 様々な輸送障害が発生している板谷峠を強化していくことは大変重要であり、それ

を突破口にしたフル規格新幹線の考え方は大切であると認識している。現在、JRで調査研究をしており、その結果を受け、JRや政府等と調整していきたい。



自由民主党  
株津 博士 議員  
(寒河江市選挙区)

**国道112号の整備促進**

**問** 国道112号の山形市城北から中山町達磨寺間など主要幹線道路の交通渋滞の多発区間の整備促進に向け、政府に対し、強く要望していく必要があると考えるがどうか。

**答** 本区間の早期整備については、知事が沿線の市町長と国土交通省に要望したほか、政府の施策等に対する提案にも盛り込んでいく。今後とも沿線市町と連携し、本区間の整備の重要性や事業効果を示しながら、早期事業化に向けて政府に強く働きかけていく。



**妊産婦への支援の充実**

**問** 子育て世代包括支援センターの設置に併せ、産後ケアができる体制を充実していく必要があると考えるが、どのように取り組んでいくのか。

**答** 産後ケアのモデル事業やニーズ調査を踏まえ、平成29年度に産後ケア推進会議を開催し、市町村のノウハウや課題を共有するとともに、効果的な事業の実施を後押しして

いる。また、県内の産婦健康診査の実施内容を調査し、早期に産後ケア等の支援に結びつけられるよう検討していく。



日本共産党山形県議員  
渡辺 ゆり子 議員  
(山形市選挙区)

**核兵器廃絶と国際平和への認識**

**問** 核兵器の廃絶は、国際平和につながるものである。政府に対し、核兵器禁止条約に署名し、唯一の被爆国として先頭に立つよう求めるとともに、県としても呼びかけを広げるべきと考えるがどうか。

**答** 核兵器のない世界の実現は恒久平和の実現につながるものであり、人類共通の願いである。政府には唯一の被爆国という立場からリーダーシップを発揮してもらいたいと考えており、今後とも国際社会の動向を注視していきたい。

**アルコール健康障がい対策**

**問** アルコールによる健康障がい対策の取組状況と、都道府県アルコール健康障害対策推進計画の策定予定はどうか。

**答** 県では、アルコール依存症の周知、未成年者の飲酒防止の周知講座、妊娠中の飲酒の危険性の啓発、精神保健福祉センター等における相談などに取り組んでいる。また、平成30年度には有識者等からなる協議組織を設置し、健康増進や精神保健などの分野を含めた総合的な計画を策定したいと考えている。



自由民主党  
佐藤 隆彌 議員  
(酒田市・飽海郡選挙区)

**みなとオアシス酒田の賑わい向上**

**問** 酒田港東ふ頭上屋の観光用施設としての活用など、みなとオアシス酒田の魅力向上に向けた検討状況と今後の進め方はどうか。

**答** みなとオアシス酒田の魅力向上検討部会を平成29年7月に立ち上げ、既存施設の有効活用に向けて検討を始めた。その中で、東ふ頭上屋を新たな集客施設に利用転換する具体的な提案などがあつた。部会で出た意見を短期と中長期的な取組に分け、30年度から取り組むことも含め具体的に検討していく。

**これからの中高一貫校のあり方**

**問** 中高一貫校に学力の高い生徒が集中するなどの声がある。庄内地区への新設に当たり、東桜学館の検証や他県の実況も含め、今後のあり方などのように考えているのか。

**答** 庄内地区への設置については、東桜学館や他県の成果と課題を検証しながら検討を進めてきた。先進県では自校の学力向上、リーダー育成、地域との連携強化などの動きが拡大し、東根市でも学校経営を見直す好機と捉え意欲的な取組が進められている。



無所属  
佐藤 昇 議員  
(上山市選挙区)

**自殺対策における課題と今後の対応**

**問** 近年、自殺者の数は減少傾向にあるが、未だに多くの命が失われている。これまでの課題と今後の対応はどうか。

**答** 自殺対策は、住民に身近な市町村の取組が重要である。また、健康や経済・生活、人間関係の問題等が複雑に関係しており、様々な専門機関等と連携した取組が必要である。平成29年度中に山形県自殺対策計画を策定し、これを踏まえ、行政や民間団体等が連携し、一体となって自殺対策を進めていく。

**農業教育の推進**

**問** 子ども達に農業を魅力的な職業として意識してもらうため、農業に関する学科を持つ高校が小中学生に対し、農業の魅力や良さを伝える取組が必要と考えるがどうか。

**答** 農業に関する学科を持つ県立5高校の全てで、小中学生を対象に農業体験活動や農業出前授業、野菜の収穫体験活動など、地域の特色や学校の学習活動に応じた取組を実施している。今後も、こうした取組を一層充実させ、子ども達に農業の魅力を発信していく。



自由民主党  
鈴木 正法 議員  
(西村山郡選挙区)

**県立河北病院におけるがんの緩和ケアの今後の展開**

**問** がんの緩和ケア病棟について、がん患者家族の事情なども十分考慮し、入院も積極的に受け入れるべきと考えるがどうか。

**答** がん患者の増加に伴い緩和ケアに対するニーズはますます高まると考えている。患者を支える家族の精神的、肉体的な負担軽減を図るため、計画的なレスパイト(家族介護者の休息)入院の実施などの地域の医療ニーズをしっかりと受け止めた緩和ケアの提供を心掛けていく。



**創業支援の課題と今後の対応**

**問** 創業支援事業の内容とこれまでの利用状況、実際に創業に至っている成果事例、課題と今後の対応策はどうか。

**答** 創業の検討・準備段階から、立ち上げ、経営の安定に至るまで、切れ目のない支援を行っている。過去5年間で2百件を超える創業が生み出され、県内で専門店を開業し、売上げを拡大している事例がある。今後とも、創業を担う人材を増やしていく必要があるため、商工関係機関と連携し、しっかりと取り組んでいく。

**フル規格新幹線の整備促進に向けた県議会研修会を開催しました**

県政の重要課題であるフル規格新幹線の整備促進に向けて、県議会における審議の充実を図るために、10月2日、県議会議員を対象とした研修会を開催しました。

四国新幹線整備促進期成会代表事務局で四国経済連合会専務理事の石原俊輔氏を講師に招き、「四国新幹線の実現を目指して」と題し、四国新幹線の整備促進の必要性や、想定される3つのルート毎の事業費や費用対効果など新幹線整備の調査結果の概要、四国新幹線がもたらすものなどについて、講演いただきました。その後、期成会会長で四国経済連合会会長の千葉昭氏にも参加いただき、意見交換を行いました。



**採択した請願**

- 平成30年度以降の米政策の見直しに関する意見書の提出について
- 私学教育の支援について
- 幼児教育の無償化及び高等学校生徒納付金の公私間格差の是正及び短期大学生、専修学校生の教育費負担軽減に向けた就学支援措置の拡充を求める意見書の提出について
- 2018年度県予算における私学助成関係予算の拡充について

**可決した意見書**

- 参議院議員選挙制度の抜本的見直しを求める意見書
- 幼児教育の無償化並びに高等学校生徒納付金の公私間格差の是正並びに短期大学生及び専修学校生の教育費負担軽減に向けた就学支援措置の拡充を求める意見書
- 平成30年度以降の米政策の見直しに関する意見書

## 議場演奏会と議会見学会を開催しました

10月3日、県議会議事堂を会場に、議場演奏会と議会見学会を開催しました。  
 県民の皆さんに県議会に足を運んでいただき、身近に感じていただくための取組みの一環で、平成28年度に引き続き、2回目の開催となります。  
 当日は、100人を超える県民の皆さんが参加して、議場の見学や、予算特別委員会の傍聴を行ったほか、県議会の仕組みや役割についての説明を受けました。その後、議場において、山形交響楽団による弦楽合奏を鑑賞しました。  
 参加した皆さんからは、「大変良い体験になり、遠い存在の県議会が身近になった」、「議場を案内してもらい、わかりやすい説明を受けて、県議会に親しみを感じた。また傍聴にきたい」、「身近な題材についての傍聴だったので興味深く聞くことができた」、「県民の生活の大切なことが議論され、施策が決定される場を見学することができ、県議会を身近に感じた。今後、さらに関心を持ちたい」といった感想が寄せられました。



議会の概要説明の様子



議場見学の様子



予算特別委員会の様子



議場演奏会の様子

## 生徒・学生との意見交換会を開催しました

県議会では、生徒・学生の皆さんに県議会を身近に感じてもらう、主権者としての政治参加意識の醸成を図ることを目的に、県議会議員との意見交換会を開催しています。

平成29年度は、開催希望のあった、山形電波工業高等学校（5月11日）、山形市立商業高等学校（6月8日）、羽黒高等学校（7月12日）、白鷹高等専修学校（7月18日）、左沢高等学校（10月30日）の生徒の皆さんと意見交換を行いました。（平成29年10月末現在）



山形電波工業高等学校



山形市立商業高等学校

### <参加した生徒の皆さんの感想>

- 議員の皆さんが課題解決に向けて色々な方向から山形県を見て、より良くしていこうとしていることがわかった。
- これまで政治は、自分には関係ないと思っていたが、意見交換会を通して、政治について学ぶことは今の私達に必要なと思った。
- 議員の皆さんは自分の市町村に自信を持っていて、私も自分の住む町に自信を持とうと強く思った。18歳になったら、町をより良くしてくれる人を真剣に選び、投票したい。
- 議員の皆さんと直接話ができ、また、議場など普段は入れない場所にも案内してもらおうなど貴重な体験ができて良かった。



白鷹高等専修学校



羽黒高等学校



左沢高等学校

## 山形県議会危機管理マニュアル策定委員会を設置

災害等の緊急事態が発生した際の県議会の初動体制など、基本的な取扱いを定める「山形県議会危機管理マニュアル」案の策定について協議を行うため、10月11日に、山形県議会危機管理マニュアル策定委員会を設置しました。



前列左から  
 奥山誠治委員、田澤伸一委員長  
 石黒覚副委員長  
 後列左から  
 柴田正人委員、小松伸也委員  
 矢吹栄修委員、高橋啓介委員

## ～ 県議会ギャラリーの提供 ～

県議会では、より多くの県民の皆さんに、県議会に足を運んでいただくきっかけになるよう、県内の児童、生徒、学生の皆さんが学校の授業や部活動などで制作した作品を展示するスペース「県議会ギャラリー」を提供しています。



山形盲学校、山形養護学校及びゆきわり養護学校の展示の様子

- <展示対象>  
 工作、絵画、ポスター、彫刻、書、写真 など
- <展示場所>  
 県議会棟1階ロビー
- <展示費用> 無料
- <問合せ先>  
 023-630-2725

県議会は、年に4回（2月・6月・9月・12月）定例会を開催します。  
 「県議会やまがた」は、各定例会の概要等をお知らせします。

編集  
 発行

山形県議会

〒990-8570 山形市松波2-8-1 TEL 023-630-2845  
 ホームページアドレス <http://www.pref.yamagata.jp/assembly/>

山形県議会

検索

## 県議会を傍聴しませんか

県議会の本会議や委員会は公開されており、どなたでも傍聴することができます。  
 当日、県議会議事堂にお越しいただき、簡単な手続きをしていただければ入場できますので、ぜひお越しください。

問合せ先 023-630-2840